

です。 2016年1月号 NO.93号 (継続238号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 http://www.forest-kanagawa.jp 発行人 久保 重明 〒243-0014 厚木市旭町1丁目8-14・グリーン会館 TEL046-280-4101・FAX046-280-4102

「新年明けましておめでとうございます」 <理事長 久保 重明>

皆様には、それぞれよいお正月をお迎えのことと思っております。年々派遣要請が増える中、派遣および現場 担当の方々にはご苦労をお掛けしており深く感謝申し上げます。

昨年末、当会にとって喜ばしいことがありました。11月28日(土)に神奈川県自然環境保全センターにて14期 生の閉講式が行われ、晴れて32名の方が我々の仲間に加わり、総勢300名を超えることになりました。まずは晴 れて県知事認定資格を得られた方々にお祝と、「かながわ森林インストラクターの会」への入会を心から歓迎申し 上げます。

ここで改めて昨年1年を振返ってみると、6月には理事・監事の改選が行われ、結果、半数の理事が交代しまし た。新たな雰囲気の中で理事会も進められ、これからの時代に向けて組織や規約も見直しを始めております。ま た8月には例年の通り、「やどりき水源林のつどい」が執り行われ、464名の多数のお客さんをお迎えし今年も盛 況でした。

11月30日には(公財)かながわトラストみどり財団の推薦を頂き、(公財)社会貢献支援財団から社会貢献が 認められ表彰状を、引き続いて 12 月 19 日の(公財)かながわトラストみどり財団の創立 30 周年記念日に感謝状 を頂きました。今までにも増して、財団の事業にお役に立てますように頑張って行きましょう。

昨年、政府地方創生担当大臣がこれからは地方の時代、林業の再生なくして地方の再生はあり得ないと言 い、8 月末には大臣自ら林業先進国のオーストリア・ザルツブルグを訪問するほどで、力を入れておられます。今 年は森林に吹く風も変わると信じ、期待を持ってこの1年を過ごしたいと思っております。

①初日の出 吾妻山より相模湾



②冬 冠雪の富士山



③春 豆桜 (富士桜)



④夏 やどりき水源林のつどい



写真撮影: ①2015. 1. 1. 22015. 1. 1. 32015.4. 6(7)2015 (4) 2015. 8. 15. (5) 2014. 11. ②, ③, ⑥, ⑦⇒小池哉(12期)、 ④⇒赤崎さほり(12期)、①⑤⇒松本(11期)

⑤秋 紅葉 やどりき水源林広場



⑥寒空の中の百舌鳥(モズ)



⑦冬の気配 山景色



平成27年度 社会貢献者表彰を受賞をしました



『平成27年度 社会貢献者表彰の受賞について』 < 副理事長 森本 正信 >

私どもの会は、平成27年11月30日 帝国ホテル東京において、(公財)社会貢献支援財団(会長:安倍昭恵様) より標記の表彰の栄に浴することが出来ました。また、副賞として日本財団様より表彰金もいただきました。

当日は、推薦人となって頂いた(公財)かながわトラストみどり財団の瀬戸(専務理事)・内海(みどり森林課長)両氏、本会からは25名が表彰式典・祝賀会に出席しました。

当会は、活動歴として23年目に入っており、この長年の森林と人をつなぐ県民運動(対外的な市民活動)と、ここ5年間の緑の募金支援団体としての公益活動で応募をさせていただいたところ、選考委員殿の眼にとまったようです。正に、継続は力と言えます。今後とも今回の受賞を励みとして、背筋を伸ばして肩ひじを張らず社会還元・貢献活動に注力していきましょう。ありがとうございました。

((公財) 社会貢献支援財団ホームページより) 【 受賞者のプロフィール(紹介) ◇推薦者:(公財)かながわトラストみどり財団 】 特定非営利活動法人 かながわ森林インストラクターの会(神奈川県) 平成 2 年に全国に先駆け神奈川県で制定された知事認定資格「神奈川県森林インストラ クター」に認定されたインストラクターによって同 4 年に発足し、同 20 年に NPO 法人に 認定された。県の進める「かながわ水源の森林づくり」などに協力し、同県の緑を守り、 育てる環境保全を行っており、森林と人をつなぐ県民運動を同県下一円で展開している。 植樹や間伐、枝打ちなどの山仕事を指導したり、自然観察や普及啓発イベントの開催など を行っている。

かながわ森林インストラクターの会は 支援団体としても取組んでいます。 全国で5番目/NPO法人で初委嘱されています。



受賞については<u>公益財団法人 **社会貢献**</u> **支援財団**(FESCO))ホームページでもご 覧いただけます。

「仲野三男さんを悼む」 享年93歳(元会長で我が会の最長老) 特別寄稿

<記 足立 功 4期 >

去る11月16日、4期の仲野三男さんが亡くなられました。仲野さんはNPO化 する以前、2回(第3代、第6代)にわたってわがかながわ森林インストラクターの 会の会長を務められ、会の発展に多大な貢献をされました。

今では仲野さんのことを知らない方も多数いるでしょうが、その方々も仲野さん の筆跡には馴染みがあるはずです。それは会報「森のなかま」の題字は、仲野さ んが書かれたものだからです。平成7年第3代目の会長になられたとき、仲野さ んの意向を受けて会報の発行を担当することになった私が、それまで不定期発 行だったのを、ほぼ毎月の定期発行にし、愛称を「森のなかま」に定めた際、仲 野さんに書いていただいた題字が、今も受け継がれ使われているのです。



在りし日の仲野さん

此の字です。

2016年1月号

NO. 9 3号 (継続238号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 http://www.forest-kanagawa.jp 発行人 久保 重明 〒243-0014 厚木市旭町 | 丁目8-14・グリーン会館 TEL 046-280-4101・FA × 046-280-4102

その当時は自立した活動組織としての会の礎が築かれた時期で、ほかにも事務局長職の創設、普及啓発 部会の設立、ネットワーク活動や公募の自然観察会の開始などが行われ、仲野さんはそのほとんどに深く 関与されました。

また平成13年、国土緑化基金の補助金を獲得して21世紀の森において会で初めての調査活動を指揮さ れ、コース整備や解説の充実に加え、コース案内のパンフレットが作成されました。

そして平成14年、会長予定者の 急逝に伴って急遽再び会長に就任 された仲野さんは、やどりきの案内 人活動の開始、会計制度改革、役 員選挙制度の創設、そして会創設 十周年(平成14年)に際しての記念 誌の発行と祝う会の開催などを主導 されました。これらのほとんどがNP O化された現在の会でも受け継が れており、仲野さんの功績の大きさ が偲ばれます。



告別式の日対面した柩の中の仲野さんのお顔は、かすかに微笑みを浮かべているようにも見える、この上 なく安らかなお顔でした。

仲野さんの森とわが会への情熱を受け継ぐことを誓うとともに、謹んでご冥福をお祈りいたします。

森林文化部会 インストラクター技術向上の為の研修会 やどりき休憩棟にて 12月13日(日) (竹リング、どんぐりトトロ、すぐにできるアイスクリーム、等) そして正月飾り(しめ縄)作り





竹リング製作 これでいいのかな?

インストラクター技術向上の為の研修会がそして正月飾り (しめ縄)の製作が行われました。当日はあいにくの小雨で したが、皆さんは熱心に作業をしていました。また1月17日 に行われる山の神祭の準備で祠の清掃も行いました。 参加者) 菊地①、米本②、白畑⑦、武者⑦、松村⑧、内野⑨、高橋⑨、 中元⑩、福島⑪、真貝⑪、赤崎⑫、門澤⑫、小貝⑭ (取材 広報部)









竹リング 完成 すぐにできたアイスクリーム 食べるのはもっと早かった

しめ縄作り 昨年習ったが これでいいのかな?

なんとか完成です

"第2回やどりきの森へ行こう"

【もうすぐ冬!紅葉&動物の痕跡探し参加:46名】、

【 家族で成長の森お手入れ体験 (間伐) 参加:2家族6名 】

11月28日(土)8:30~15:10 晴れ、 (写真撮影:菊地①、松本①)

もうすぐ冬!紅葉&動物の痕跡探し

オリエンテーション



菰吊橋の上で昼食



冬芽の説明



ススキ群の説明



家族で成長の森 お手入れ体験(間伐)

わたしもがんばる!



最初は家族3人で協力して



適性抜群の男の子 一人で作業



活動短信

今回の掲載は10/15~10/31です。 寄稿頂いた中には、紙面都合や寄稿タイミングで次号 以降の掲載になるものもあります。



菊花開 10/13~10/17 頃) きくばなひらく 第五十候 寒露 次侯



霎時施 10/28~11/1 頃 こさめときどきふる 第五十三候 霜降 次侯

◆ 横浜市立さわの里小学校(足柄宿泊体験学習) ※森林・林業にかかわる学習と間伐体験活動

日 10月15日(木)10:00~14:00、晴れ

場 小田原市久野水源林

参 55名 (小学5年生49名、教師6名)

財 豊丸様

1 L井出①、滝澤⑤、小沢⑨、薗田⑬、小川⑬

担当インストラクターは朝8時10分、JR 松田駅に集合し足柄 上合同庁舎より財団の豊丸様と合流し現地「久野水源林」へ向 かった。打ち合わせの後、全員で現場確認(今回はヒノキ約20 年生)。

10時ころには元気な姿の 子供たちが先生方に導かれてやってきました。インストラクターのリーダーより森林と林業にたいするレクチャーがあり、活動班は5班に分かれて、一班が10人を受け持ち、インストラクターの指導のもと、ヘルメット・鋸・ゴーグルを装着して、体験場所の檜の山の中に入っていきました。

林業作業の中で一番危険度が高い間伐に対し、安全管理の 徹底や作業手順などを説明後、生徒さんたちが順番に間伐鋸 で切り始めました。実際に生木を切るのは初めてで、最初はぎ こちなく鋸を扱っていましたが、徐々に慣れてきて男子も女子も 一様に額に汗を滲ませながら真剣に作業をしていました。

伐倒後、班全員で昼食を取り、午後からは伐倒したヒノキで各自2個ずつマイコースターを嬉しそうに作っていたのが印象的でした。日本が世界に誇れる「ヒノキとスギ」の違いを理解し、今回の間伐体験を通して林業の大切さや大変さを感じてくれたように思います。

木々が大きく成長し見事に根を張って土砂崩れの起きない 健康な山・・・そのように生徒さんたちが思いを育ててくれたら 嬉しく思います。

(記 小川 和恵 13期)

◆ 回胴式遊技機商業協同組合(下草刈り)

目 10月17日(土)11:00~12:30、 曇りのち晴れ

場 やどりき水源林

参 金本副委員長、成田支部長他86名 (大人74名、子供12名)

県 増田様

✓ L村井⑨、小野⑦、齋藤⑧、小沢⑨、真部⑬

朝から小雨が降り、沢の増水やヤマビルが心配されましたが、11時の集合時間には天候も回復、増水もなくインストラクター

一同ホッとしました。

現地は、平成19年度にイロハモミジやブナ、クヌギなどの広 葉樹が植栽され、今回が3回目の下草刈りとのこと。しかしつる 性植物やヤシャブシ、ジャケツイバラ、ウツギなどの潅木が侵 入しているため、大鎌、中鎌のほか、剪定バサミや間伐ノコギリ を用意しました。主催者と増田様のあいさつ、リーダーによる諸 注意の後、3班に分かれ下草刈りの開始。背丈以上のススキや 潅木が占有し、植栽木に被さっていましたが、植栽地そのもの が狭いため、近接作業や大鎌を振り回さないよう注意を促し、ま た参加者も意識的に取り組まれたこともあり、無事作業は終わり ました。

作業中は回胴式遊技商業組合様の広報担当や業界誌の記者が多数お見えになり、植栽木の種類や下草刈りの意義等の質問を受け、森を守る活動への関心の高さを感じることが出来ました。

最後に主催者側のまとめのあいさつがあり、募金へご協力を 頂いた後、参加者はそれぞれ満足顔で次の会場に向いました。 (記 齋藤 彰秀 8期)



◆ 逗子市立沼間小学校 高取山登山体験活動

日 10月19日(月)9:00~14:00、晴れ

場 愛川ふれあいの村 高取山

参 大人4名子供55名(登山希望者)

スタッフ 学校側4名

□ L小野⑦、高橋③、堀江④、白畑⑦、 内野⑨、大原⑬

学校側で事前に生徒の希望を入れて、登山班・観察班の2グループ編成にて9:30に登山口をスタートした。

登山班は全員元気一杯、休憩地点でも10分弱の小憩で所要時間は1時間半、当初想定より30分近く短縮、以降のスケジューに余裕が出来た。

登山道の秋の草花は概ね盛りを過ぎていたが、まれにみる 好天気に恵まれ澄んだ空気の中、樹間からの眺望に「自分の 足でこんなに歩いたのだ」と各々満足感に浸ったようである。

頂上直下の急傾斜地では堀江さん持参の長尺ロープを張って登り・下りの安全策とスピードアップを図ったがつかまる樹木もない場所の為、後に続いた他校も利用して大変感謝されたが今後の活動時も検討すべき対応であろう。秋霞がたなびき期待のランドマーク方面は霞んでいたが展望台からの宮が瀬ダムの湖面の青さは印象に残ったことと思う。

「行動中の安全の為インストラクターより前には出ない」ことを 事前に学校側にもお願いしておいたが生徒は全員素直に約束 事を守り、我々を悩ますような事は皆無であった。

<記 小野 幸広 7期>

◆ 株式会社カナエル <森林再生パートナー活動>

日 10月20日(火)9:30~13:30、 晴れ

場 南足柄市塚原ボランティアフィールド

参 取締役 佐野様 他社員16名

1 L 村井⑨、渡辺③、有坂⑧

リーダーとして参加予定の松山⑩さんが、活動4日前に下見を終えた後、親戚のご不幸があり、急遽、村井がリーダーとなりました。活動前日にも分かりにくい現場の入り口へ目印を付けて頂くなど(世附の活動の後帰り道)して頂き活動に支障をきたさず大変助かりました。

カナエル様は塚原がボランティアフィールドなのですが、県立21世紀の森「マダケの展示林」で竹林整備活動をしばらくされていましたが、塚原も幼木(14年生)ながら、間伐ができるようになり今回は枝打ちをしてその現場で間伐をしました。

倉庫からだいぶ離れた場所でしたので、8時半に集合し現場 入り口前まで車で用具を運び、参加者の到着を待ちました。裏 表に間伐の仕方、枝打ちの仕方をコピーして活動資料として差 し上げ作業段取りを説明しスタート。

カナエル様は若者集団なので、作業もスムーズに進み小休 止には3期の渡辺さんのミニ森林講話が楽しくより森林に興味 を持たれた様子でした。素直な方ばかりで気持ち良く作業がで きました。解散後、現場は古い空き缶や弁当空が散乱していた ので、3人で清掃して帰途につきました。

(記 村井 正孝 9期)

◆ 横浜市立希望ヶ丘小学校

(愛川ふれあいの村で自然観察をしよう)

日 10月20日(火)9:00~11:30、晴れ

場 愛川ふれあいの村

参 79名(小学4年生71名、教師8名)

□ L谷川⑪、堀江④、斉藤⑥、小沢⑨、薗田⑬、 小川⑬、真部⑬

朝から絶好の自然観察日和に恵まれた。午前7時30分、インストラクターは待ち合わせ場所の愛甲石田から活動場所の「愛川ふれあいの村」へ向かった。

9時より、子どもたちによる「はじめの会」の挨拶と各インストラクターの紹介があり、オリエンテーション後に7班に分かれ構成は10名であった。担当インストラクターとともに木ラリーに出発した。回るコースは子どもたちが自発的に決めた。

今回の活動は「木ラリー」とインストラクターリーダーが作成した「ビンゴシート」に載っている動植物を見つけながらの体験型観察会であった。わずかに黄色く色づき始めたイチョウや様々な形の樹皮に触れて不思議そうに撫でているのが目に付いた。大人では見過ごしてしまいそうな小さなキノコを見つける子やオーグルミがリスなどの小動物によって貯食される話の時は驚きの声をあげていた。

村の中に数多くある樹木を探していくことにより、身の回りの自然への興味や、グループでの活動を通して、仲間と協力してやり遂げる達成感を感じてくれたことと思う。

(記 小川 和恵 13期)

◆ パルシステム神奈川ゆめコープ「きこり体験 & 森林ウォーキング」

日 10月24日(土) 9:30~14:50、 晴れ

場 小田原いこいの森

参 参加者(パルシステム様顧客):19名、

スタッフ パルシステム様5名

他 小田原市森林組合 佐藤健様

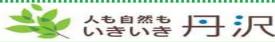
1 L西出⑫、有坂⑧、松山⑩

参加者は小学生の家族連れの方々で、まず、午前の前半は森林ウォーキングを行いました。サワガニを見付けたり、カツラやニッケイの葉の匂いを嗅いだり、ガマズミの実を食べたりして、約1時間、五感を通して楽しく自然観察を行いました。午前の後半は、管理棟近くの樹高30m程もあるヒノキの大木の間伐を行いました。この様な大木を伐採する機会はめったにない事で、皆さん順番に鋸を使って大木に挑み、そして、倒れた時の迫力に皆さん歓声とたいへんな拍手でした。

付近のヒノキは伐採されて、その跡には、今回伐採されたヒノ キも使ってバンガローが建てられる予定であり、ある家族の方 は是非泊りに来たいとおっしゃっていました。

午後は近くの大山材木店で実際の原木の製材工程を見学しました。 材木店の説明者の方の話上手もあって、小学生から活発な質問が出ていました。 天気にも恵まれて、皆さん、楽しい一日を過ごせて頂けたと感じました。

(記 西出 健一 12期)



丹沢の自然再生に取り組む 丹沢大山自然再生委員会のホームページでご覧ください。http://www.tanzawasaisei.jp/

◆ 日本石油輸送株式会社 森林活動 (枝打ち作業)

|日| 10月24日(土)9:00~12:30、 快晴

場 塚原ボランティアフィールド 日本石油輸送の森

参 日本石油輸送(株)社員、神田様他9名(男性7名、女性2名)

7 L村井⑨、大原⑬

当日の塚原ボランティアフィールドは、14期生の間伐実習と重なっていたので、社員の皆さんが到着後、段取り良く活動に入る為に、駐車場確保・装備準備等で早めに現地入りしました。

準備体操後、作業場へ移動し、枝打ちの目的を説明し、やり方の手本を示した後、足場の安全確保、皮を剥かないよう注意して作業を開始しました。作業場は急斜面で、足場確保が大変で、また、植栽後、一度も枝打ちされてなく、枝が地際から伸びていて、作業が大変なところもありましたが、怪我もなく予定通りに作業を終えることができました。社員の皆さんには、作業後の振り返りで、明るく見通しが良くなったこと、風通りが良くなったことを実感してもらい、また、森林のはたらきや役割に関する理解を深めて頂いたことと思います。当初予定のコースターづくりを止めて、枝打ち作業に活動時間を充当しました。快晴の秋空のもと、新鮮な空気を一杯吸いながら活動することができました。

(記 大原 正志 13期)

◆ 三菱倉庫株式会社 森林再生パートナー森林活動

日 10月24日(土)10:00~12:00、晴れ

場 山北町世附 三菱倉庫の森

三菱倉庫 横浜支店・東京支店 全体24名 (間伐14名、自然観察10名)

県 星様

<間伐グループ> 参加者14名

1 L 小沢(9)、斉藤(6)、焼尾(13)

秋晴れの快晴。三菱倉庫の世附・森林保全活動は天候に恵まれた。写真撮影後、法貴常務より 2011 年から行われている CSR 活動としての従業員への説明、ならびに自然環境保全センター星様より水源としての森林保全の意義の解説、小沢リーダーより森に入るにあたっての注意事項について確認があった。皆で準備運動後、自然観察グループと間伐グループに分かれる。間伐グループは、道具配布、班分け後早速現地へ向かった。

間伐グループは、A, B, C と3つの班に分かれての作業。三菱倉庫の活動は、回数を重ねているものの、初めて間伐作業を行う参加者の方も半分くらいはいらした様子。 そのため、各班インストラクターから丁寧な間伐方法の説明を行い、作業に取り組んだ。

綺麗に枝打ちされた世附のヒノキも、年数を重ね大きく、かつ密になってきており、各班かかり木となるも、ロープをうまく活用して安全に伐倒。今回の活動は、昼食をすぐ隣の世附川ロッジでいただくことになっていたため、十分な作業時間があり、伐倒後も玉切りや枝整理も十分に行うことができた。

自然観察グループと合流し、お楽しみの世附川ロッジでの 野外バーベキュー。森林インストラクターも各テーブルにおよ ばれし、丹沢湖を挟んだ色づき始めた秋山の風景を見ながら、 森林のはたらきや職場でのことを大いに語らい、昼食をとった。 事故も無く、参加者・関係者皆様にとっては自然を満喫する最 高の一日となったことであろう。

(記 焼尾 徹 13期)

<自然観察グループ> 参加者10名

イ L白畑⑦、真部⑬

自然観察班は世附川ロッジの先へと続いている平坦な林道で行われた。遠くに見える山々が色づき始めていてとても気持ちのいいロースだ。

一本一本の草木を近くでよく見ると、色とりどりで形の異なる 実がついているのがよくわかる。今回は、事前に「木の実・草の 実ビンゴシート」を作り、ビンゴで説明された実を探しながら秋 の一日を楽しんで頂こうと考えた。多くの種類の中からノイバラ・ サンショウ・ノブドウ・オニドコロ・ミツバウツギなど厳選16種を盛 り込んで、実物を発見したところで色や形をじっくりと観察。

植物の生存戦略が見えてくるところが面白い。実を探そうと近くを見ているとシマヘビを発見してびっくりする場面も。ヤマノイモには種の入った三翼の実のほかに大きなムカゴがついていて、思わずつるを引っ張って取ったり味わってみたりした。遠くの人工林を眺めながら森を育てることの困難さを垣間見る機会も得られた。

好天に恵まれて、多くの植物や生きものたちとの出会いを楽 しめたように思う。

(記 真部 幸枝 13期)

◆ 伊勢原市立石田小学校 森林づくりを体験しよう(長竹承継分収林)

日 10月30日(金)9:30~14:00、 曇のち晴

場 相模原市緑区 長竹承継分収林

参 小学5年生89名 教師7名 計96名

財 古舘様

L渡部⑦、高橋③、渡辺③、宮本④、齋藤⑥、松山⑩、 松本⑪、西出⑫、小川⑬、薗田⑬

朝は雲が多く少し肌寒い日でしたが、児童達は元気いっぱいで愛川ふれあいの村からバスに乗り込み、インストラクターも同乗して現地へ向かう。班毎に割り当てられた区画に入り、伐倒する木の選木について対象木(周囲と比べて細い木・曲がっている木・二又になった木・周囲との間隔が狭い木など)を説明しながら児童と一緒に探し決定する。ロープ掛けが終わってから、いよいよ鋸入れとなったが、石田小学校の生徒達は学校の授業で鋸の使い方も勉強しているとの事で、余り違和感なく交代で受け口、追い口を切る。掛り木となったが、元を切り離して何とか引き倒す事が出来た。

枝払い・玉切りの後、各自コースターの切り出しをして、日の 光が差し込む木漏れ日の中班毎に昼食となった。

昼食後、間伐の必要性や杉・ひのきの見分け方、間伐した幹 や枝を見せながら林業の話を

する。全員怪我もなく下山開始、下山途中で終わりの会が行われ定時に終了となった。

(記 園田 栄哉 13期)

投稿概略フォーマットと略語の説明

ページレイアウトは気にされずベタ書きで結構です。

◆ 活動団体·活動名 等

日 日付(できれば時間と天気も)

場場所

参加者&人数

県 神奈川県 環境農政局 水·緑部

水源環境保全課 水源の森林推進グループ

小原界現床主味 小原の無性性の

|財 ((公財)かながわトラストみどり財団)、|看 看護師

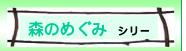
スタップ 例 小田原市森林組合 X X 様

例 川崎市公園緑地協会・XX様

インストラクター (○数字:期) 研:研修枠(以下本文を概ね400字を目安として執筆ください)

リーダーは責任を持って執筆者の選択をお願いします。 **活動終了後の速やかな投稿をお願いいたします。**

森のめぐみの掲載は、 今月号はありません。 次掲載は2月号です。



やどりき水源林 ミニガイド

12月のトピックス

来春のお客さまに備え経路補修が進ん でいます。準備された杭等の材料



(12/12 撮影 林道コース終点広場)

1月の水源林

やどりきは冬の真っ只中。 1/17 は山の神祭が開かれます。

「森の案内人」情報 (12月、1月、2月は休みです)

- ●実施時間:毎週土曜・日曜・ AM10 時·PM1 時, 1~2 時間程度
- ●集 合:水源林入口ゲート前
- ●内容:森林インストラクターが自然 観察にご案内します。森林のしくみ 手入れなどについて説明致します。 参加自由、参加費無料
- *10 人以上の団体は事前に下記ま でご連絡ください。
- ●問合せ:(公財)かながわトラスト みどり財団 TEL: 045-412-2255 FAX: 045-412-2300
- ホームページ: http://www.ktm.or.jp
- E-mal: midori@ktm.or.jp
- ●やどりき水源林までの道順

小田急線新松田駅または JR 御殿場 線松田駅下車、富士急湘南バス「寄 (やどりき)」行き乗車約 25 分。バス 下車後(案内板あり)川沿いに徒歩 35~40分。

寄大橋の右横が水源林ゲートです。

イベント情報 & ご案内



◇ 森のなかま原稿募集

会員・読者の皆様から広く原稿を募集し ています。

<広報全般についてのお問い合わせ> 松本 保

Mail: matsutamori@jcom.zaq.ne.jp

Tel: 090-7962-3168

<電子配信担当> 赤崎 さほり

Mail:s_akasaki-k_instructor@live.jp

Tel : 090 - 6150 - 6173

<メール・手書き原稿送り先> 【本誌】松本 保

〒246-0037 横浜市瀬谷区橋戸 3-46-17

Fax: 045-301-9401

電話連絡先:090-7962-3168

Mail: matsutamori@jcom.zaq.ne.jp

【別冊】水口 俊則

〒250-0871 小田原市下堀 123 Tel/Fax: 0465-42-7240

Mail: minagold109@kjd.biglobe.ne.jp

【別冊は CC を】 福島 正治 (新事務局長)

〒214-0006

川崎市多摩区菅仙谷 3-1-1-204

Te1/Fax: 044-944-9423

Mail: fukky52000@yahoo.co.jp 原稿は随時受付けています。

森のなかまは過去号もご覧になれます。 (ホームペーシ゛) http://www.forestkanagawa.jp/3kiroku.html#kiroku01 (HP 担当: 井出恒夫)

編集後記

- ★気がつけば年末。沢山の方にお世話に なりました。来年もどうぞよろしくお願いしま (赤崎)
- ★高尾山のカラス天狗さんは、もうじき訪れ る新年を迎える準備に余念がありません。 (1111)

★「寒暖差の大きい不安定な天候が続く師 走ですが、

体調を崩す事なく元気に新年を迎えたいも のです。」

(菌田)

★ 朝の冷え込みで、車のフロントガラス解 凍に苦戦です。パソコンも買い換えこれも 移行で苦戦だらけです。

(水口)

★発送 JOB をして頂いていた徳岡さん① が広報を去ります。途中療養で中断時期も ありましたが、血液型ABからAになって復 帰され、今日まで協働頂きありがとうござい ました。

この漢字は、中国の漢字の なかには、最も多い画数が あると言われています。

発音は「biang(ビャン)」で、

全部で56画数もあります。呪文のような、あ るいは、絵のような複雑な形をしています。

「biang」は、元々、陝西省・西安市あたりで 使われていた文字です。用途もかなり限定 されいて、「西安八大麺」の一つに数えられ ている郷土料理「biangbiang(ビャンビャン) 麺」に使われていました。

◇ 年間通読のお申し込み

「森のなかま」年間通読をご希望の方は、 郵便局備付けの郵便振替を利用してお 申し込み下さい。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会宛までご 寄附2000円をお振込み下さい。振替用 紙には、必ず、住所、氏名を明記して下

振替用紙到着の翌月号から12回/1年 間お届け致します。

松本 保 編集人:

広報部: 水口俊則 大塚晴子

赤崎さほり 小池 哉 小川和恵 薗田栄哉

支援 伊藤恭造

謹



本年も御寄りください。 よろしくお願いいたします。

山麓のオアシス



小田急 新松田駅 踏み切り際

緑の募金箱協力店